

CLTI に対し Esprit BTK を用いた EVT により良好な初期血流改善を得た 1 例

¹筑波メディカルセンター病院大竹 康弘¹、庄司 佳代¹、若林 翔¹、永田 駿弥¹、海老原 夢子¹

【背景】 包括高度慢性下肢虚血（CLTI）治療では肢救済や創傷治癒が目的となる。膝下動脈（BTK）病変に対する血管内治療（EVT）は広く行われているが、高い再狭窄率により再介入を余儀なくされる症例が多い。今回、生体吸収性スキャフォールド（Esprit BTK）を使用した症例を経験したので報告する。【症例】 Rutherford 分類 Category 5 の CLTI 患者。前医で治療を受けるも難治性下肢潰瘍が改善しなかったため当院循環器内科へ紹介となり、左下肢病変に対し EVT を施行した。【結果】 TPA から PTA の病変に対し、事前拡張後に Esprit BTK を計 3 本留置した。IVUS にて良好な拡張と圧着を確認し、合併症なく手技を終了した。術直後より末梢血流の改善を認め、現在創傷治癒に向けて経過観察中である。【考察】 BTK 領域においてバルーン治療は急性リコイルや解離の課題があり、金属ステントは永久留置に伴う再介入の制限から使用が限られていた。Esprit BTK は初期の機械的支持力と薬剤溶出効果を備えつつ最終的に消失するため、将来の再介入の選択肢を奪わない。本症例でもこの特長が発揮され、良好な初期拡張と急性期血流改善が得られたことで、今後の創傷治癒が期待される。【結語】 前医難治性の CLTI 患者に対し、Esprit BTK を用いた EVT により良好な初期拡張と血流改善を得た 1 例を経験した。再治療の多い BTK 病変における本デバイスの有用性が示唆された。